

「GIC 第 12 回ガラス技術シンポジウム」参加報告

(一社)ニューガラスフォーラム事務局

Report on the 12 th Glass Technology Symposium sponsored by GIC

New Glass Forum

1. 経緯

ガラス産業連合会 (Glass Industry Conference) がガラス 6 団体で設立されて、16 年目となります。GIC の主な役割は構成するガラス関連 6 団体 (板硝子協会, 硝子繊維協会, 電気硝子工業会, (一社)日本硝子製品工業会, 日本ガラスびん協会, (一社)ニューガラスフォーラム) の共通する技術課題のフォローや新年会など重複する行事を遂行することです。

ガラス技術の交流が、特に学界と産業界の間で不足しているとの反省から、産学交流活性化の対策として12年前から、日本セラミックス協会ガラス部会主催の「ガラスおよびフォトリソ材料討論会」(ガラ討)に共催プログラ



ムとして「ガラス技術シンポジウム」を開催することになりました。また、ポスターセッションではガラ討と合同でポスターセッション、研究室紹介、その後の懇親会を行っています。

今回は、日程3日間(11月13日(日)~11月15日(火))、京都大学吉田キャンパス「国際科学イノベーション棟」をメイン会場として行われ、日米セラミックス協会ガラス部会 CerSJ-GOMD 合同科学技術シンポジウムとして開催されました。バンケットも、時計台2階の百周年記念ホールで行なわれました。

当フォーラムでは、企画部長の坂井が事務局をして準備を進めてきました。当日の参加者は約320名でした。

今回も前年度と同様、国際セッションにより

多くの時間を割くために GIC のガラス技術シンポジウムの招待講演は 1 件にしておりますが、3 日目のガラ討にガラス溶融の英語セッションの招待講演 7 件に GIC の希望を反映させて頂きました。また、ポスターセッションには 20 件のポスターを掲載いたしました。

更に国際セッションの評価委員やガラ討の発表の座長なども GIC 側委員にご協力いただきました。

2. 講演テーマと講演者

今回は、元帝人株式会社知的財産部長で三原特許事務所所長の三原秀子氏による「知財戦略のあり方～事例に学ぶ知的財産戦略の要諦（かなめ）」の講演が行われました。科学技術イノベーションにおける国際情勢の概要と、企業戦略の重点化した取り組みと産学連携のありかたを実例を交えて講演いただきました。



ポスターセッションでは、GIC テーマとして 20 件の発表がありました。

例年のように GIC の活動紹介のポスターとニューガラスフォーラムからガラス種 32 万以上収録の「INTERGLAD Ver 7.6」と国家ブ

ロジェクトの成果のフォローアップ事業のポスターの展示をおこないました。



ポスター会場

3. 余話

今回は米セラミックス協会ガラス部会 GOMD との合同国際シンポジウムということもあり、2 日目のバンケットには芸妓や舞妓さんもお目見えしてとても華やいだ感じでした。



昼休みは長めの設定でしたので、近くにある吉田神社の境内を散策しました。後で聞けば、神社の裏の丘を越えた反対側に庭のきれいなお寺があるとのことでしたので、それを見られずに帰ってきてしまったのが残念でした。